

# 過半数の小売業が主力製品の単価10%以上下落

DATA

今回は独立行政法人中小企業基盤整備機構・全国中小企業団体中央会による「中小企業の製品等の価格と雇用の動向に関する調査」(2009年11~12月)から「主力製品等の単価の低下割合」を取り上げます。

グラフ1は、全産業を対象に、2008年と比較して主力製品の単価がどれくらい低下したかを示しています。最も単価下落が著しいのは、消費者とじかに接する小売業。「20%以上」「15%以上20%未満」「10%以上15%未満」を合わせると過半数に達しました。

なお、最も下落幅が小さかったのはサービス業。10%以上下落した割合は4分の1前後にとどまりました。

グラフ2は、小売業の単価変動の理由を表しています。最も多い回答は「競争相手の単価や世間相場に追随」の53.3%。価格競争への対応に苦慮していることがうかがえます。

